

## 活動報告書

### 1 グループ名

特定非営利活動法人 マメポニ

### 2 提案名

みなとみらいでポニーと親子で遊ぼう！

### 3 助成を受けて行った活動の時期及び内容

◎活動実施日：平成25年11月23日(土・祝)

◎内容：2才から小学2年生までの親子を対象に20組程度を募集し

小動物ではなくポニーを主体とした動物介在幼児教育を実施しました。

参加者は当日の体調不良による欠席とキャンセル待ちからの出席者で20組親子。

グループ分け：最少年齢1歳7か月～最高年齢6歳までの幼児を年齢で、2つにグループ分けました。

☆低年齢の子ども達は小さく、骨格上の問題で重い子は負担となってしまうが非常におとなしい馬

☆6歳～3歳児で体格の良い子ども達は体躯がしっかりとした馬に振り分けた。

動物福祉に配慮する事で使用する馬に対するストレスを軽減し、コンディションの良い馬を提供できる。

親子(家族)で参加する事で共通の体験ができ体験終了後も同じ話題を共有する事で、

親子の絆が深まった。(実施後に、参加した保護者より子どもの様子について「動物に触れなかったのに

興味を持つようになった」「子どもが、またポニーに会いたいと言っている」「また参加したい」、などのコメントを

直接、あるいはメールにて頂いた事から推察する。)

幼児に分かりやすいように紙芝居を用いて馬との付き合い方を説明、その際には

横にポニーを置き具体的に話をしました。

年齢により馬のグループを決め2つの班に(1班10組)分け、2組ずつ順番にボランティアと

スタッフが餌のあげかた、ブラッシングのやり方、参加者の立ち位置等を丁寧に指導しました。

幼児の手をとり安全にエサやりの体験ができ楽しそうに会話が弾みました。歓声が上がったり

動き回る子ども達が出てきた時には、馬が驚くので大きな声を出したり走らないようにと、

スタッフが優しく声掛けをした事で、親子で馬(相手)への思いやりを考えるよい機会になりました。

トイレ・水分補給・軽食などを取りながら10分程度休憩を入れました。その間にスタッフが

2頭に鞍を装着し引馬準備を開始しました。

1頭のポニーに、馬を引く人・横につく人を決めておきます。安全を優先してそれぞれが協力しました。

引馬中に親が写真を撮る場所を決め、記念撮影をしました。

引馬後に休憩をとりゲーム準備。

ポニーを引いていた引手をバトンとして親子4グループに分かれ、コーンを置いたスラローム競争を実施。

ポニーはグループの最後に位置しスタッフとボランティアが引いて競技に参加しました。ポニーがグループの途中に入る事で子ども達の中に仲間意識が芽生えたように感じました。

終了後に挨拶、動物を触ったので手を洗うように再度促し、アンケートを実施しました。

スナップ写真については当法人の役員も撮影し、終了後にフェイスブックやホームページで告知、

個人情報に留意して参加者それぞれがダウンロードできるようにしました。

このサービスに対し、実際に参加保護者からお礼のメールが届きました。

今回は2才になっていない子供もこのプログラムに参加しており、1歳後半の子ども達は

疲れや眠気から騎乗後のゲームに参加できず残念そうに騎乗後に帰路につきました。

プログラム途中で帰られた幼児の保護者には、プログラムをこなす事よりも子どもの体調を最優先する事、無理をしない事が今後につながっていくとお話ししました。

騎乗はポニーが小さいので、子ども達のみ実施。乗る事に不安な子供については保護者が横について歩くことで不安が解消され楽しんでいました。それでも乗る事が怖い子供については無理強いせず、親・スタッフと一緒に【ポニーと散歩】という体験をしました。

#### 4 エリアマネジメントにおける効果

港の公園で実施したことで、海と空、木と草と馬の感触が一体となり、

自然をととも身近に感じる事が出来た。解放感があり癒されていると感じた。

参加者からも、「今後も【みなとみらい】での活動があれば、参加したい」との希望があった。

公園を訪れた人達とポニーとのほのぼのとした交流があり、オアシス的な雰囲気を感じられた。

今回の活動の参加者は一人の保護者と一人の子どもという組み合わせでなく、幼児を含む

家族単位で参加していた。このような参加家族とこの風景をまた見たい・体験したいと

訪れる人達による経済的効果が見込まれる。

地域住民がこの活動に参加する事で他の子育て家族との交流が進み、地域への愛着や満足度の高まりが期待できる。

#### 5 今後の活動展望(課題や活動の広げ方、継続性 等)

◎課題： 幼児が対象なので集中力の維持ができる事が重要と考えている。

1回の活動が2時間枠だけではなく、1時間の枠でも同様の内容が体験できるプログラムの検討が必要である。

◎活動の広げ方、継続性

来年度は1回だけではなく定期的な開催をめざし、子ども達に動物とのふれあいの時間を提供して非日常的な時間を過ごしてもらい、相手を思いやる心が育つように見守っていきたいと思っています。1日2パターンで年齢、参加回数での差別化を図ったプログラムを実施して、満足感と向上心が得られ、【みなとみらい】という地域の魅力を生かしたマメポニーの企画をしていきます。ボランティアさんとスタッフの交流・研修を行い、安全確保と良い指導者の確保ができるようにしていきます。地域の学生・住民のボランティアさんと一緒に活動する事でこの地域での活動の輪を広げていきたいと考えています。

この活動の継続のためには、助成金に頼らず参加費を参加当事者から頂く事や、地域企業による支援で参加者とのウィンウィンの関係を作れることができれば、継続しやすくなり活動が広がると考えています。

横浜市の後援や地域団体の支援を受けて今後の継続へ繋げていきます。

# 収 支 決 算 書

団体名 特定非営利活動法人 マメポニ

1 収入

項 目	金 額	説明（負担者及び負担方法等）
交付された助成金（A）	50,000	
参加費	0	港湾施設使用に際しこの事業が横浜市の後援を受けていない為徴収不可
自己資金	2,143	
合 計	52,143	

2 支出（助成金対象経費分）

項 目	数量 (単位)	単 価	金 額	説 明
賃借料	1(組)	20,000	20,000	(ホニ-2頭)
	1(台)	10,000	10,000	(馬運車)
駐車料金	2(台)	1,500	3,000	馬運車・応援車
輸送経費	35.78L 往復	144.0	5,152	馬運車
ガソリン代 高速料金			5,200	(阿見東⇄みなとみらい)
イベント保険	5(名)	250	1,250	スタッフ2名 ボランティア3名
消耗品	6	105	630	名札
	3	105	315	名札用色画用紙2種・紐
	1	1,000	1,000	人参
	2		1,096	プラチェーン・ウエストバック
会場費	300平米	15	4,500	港湾施設使用料 (カップヌードルミュージアムパーク)
合 計 (B)			52,143	

3 決算後の助成金の額

【みなとコース】

(1) (A) ≤ (B) の場合 (A) の額            ¥ 50,000.-

(2) (A) > (B) の場合 (B) の額            ¥            .-

【みらいコース】

(1) (A) ≤ (B) × 4/5 の場合 (A) の額            ¥            .-

(2) (A) > (B) × 4/5 の場合 (B) × 4/5 の額        ¥            .-